

中学生の「税」についての作文

市税務課では、納税意識の高揚を目的に、次代を担う中学生を対象に「税」についての作文を募集しました。この中から最優秀賞である小松島市長賞を受賞された小松島中学校3年生の梶原美杏さんの作文を紹介いたします。

「毎日の生活と税金」

小松島中学校 三年
梶原 美杏



私は自分やたくさんの方が税金を払っているからこそ、幸せな生活が出来るんだと思います。そう思った理由は二つあります。

一つ目は、少しのことであっても警察が動いてくれることです。私が中学一年生の時にペランダにヘビが出たことがあります。その時、家には母と姉と私しかおらず、全員があわてていました。自分達では退治が出来ないので警

察をお願いすることにしました。少しして警察が来てくれた時に私は目を疑いました。なぜなら、警察官が持つてきてくれたバケツは当時の私が二人余裕で入るようなとても大きいものだったからです。他にも、ヘビを退治する時に私達の前で退治する事を確認してくれ、トラウマにならないようにしてくれました。このように少しのことでも頼れるように少しのことでも頼れるため、私達は安心して暮らせることを自覚する事が出来ました。

二つ目は、災害の時に救助や支援が出来ることです。自衛隊が動いてくれることはもちろんのこと、食糧や生活用品などの支援があるおかげで助かった人が大勢いると思うからです。私はまだ大きな災害を体験したことはありませんが、テレビなどで大きな災

害はたくさん見たことがあります。その時に、自衛隊やボランティアの人によって助かった人を見たことがあります。だからもしも自分が同じ状況になった時も、助けてくれるという安心があります。このように思えるのは、いつ起こっても支援ができるように私達が税金を払っているからだと思います。このことから、自分が税金を払うことによつて多くの人を助けることができます。だから税金を払うことを無駄だと思おうのではなく払うことによつて誰かを助けたいと思いました。

しかし、いくら人の助けになると言っても、税金が高くなり続けられれば、税金を払わなければならない人が増えてくるのではないかと思います。現在の日本は少子高齢化が進んでいるため、一人あたりの社会保障の費用の負担が増加しています。だから全員が公共サービスを受けられ、その負担をどのようにならなければならないか考えていかなくてはならないと思います。私はまだ負担する側ですが、いずれは保障を受ける側になります。その時にサービスに格差があつてはダメだと思います。もし都市部の方がサービスが良いのなら皆が都市部へ行くといいと思います。すると、都市部の過密や山間部の過疎へもつながります。そのため私達は今からでも税金について、たくさんの方の知識を持つておくべきだと思います。

これらの事から税金を払うことはとても大切です。誰かを助けることが出来たり、自分の助けになったりと多くのことが出来ます。だから私は、絶対に税金を払って生きていきたいです。



受賞・入選された方々

今年度の「税についての作文」優秀作品の表彰を受けた方は次のとおりです（敬称略）。

【小松島市長賞】

小松島中学校 3年 梶原 美杏

【審査員特別賞】

小松島中学校 3年 井内 凜
小松島南中学校 2年 西 葵衣

【入選】

小松島中学校 3年 田上 知佳
小松島中学校 3年 林 和輝
小松島中学校 3年 伴 幸帆
小松島南中学校 1年 佐々木 音羽
小松島南中学校 1年 佐藤 絢椛

【佳作】

小松島中学校 3年 勝浦 蒼真
小松島中学校 3年 竹田 洸介
小松島中学校 3年 仁田 穂香
小松島中学校 3年 森内 奏礼
小松島南中学校 2年 市山 りんな
小松島南中学校 1年 小原 優梨香
小松島南中学校 1年 濱本 彩
小松島南中学校 1年 原岡 莉亜